

東京経済大学 2013 年度 学内G Pプロジェクト (学長プロジェクト)

図書部だより



撮影:図書部員 ヨッシー

突撃インタビュー

理事長が
薦める本

現役会計士でもある
本学理事長おすすめ本

創刊記念号

・巻頭特集 理事長インタビュー ・おすすめ本紹介
・図書館蔵書紹介 ・図書部員紹介
・図書部について ほか

発行:東京経済大学 図書部

独占！

理事長インタビュー！！

私たち図書部員は図書日より創刊記念として、私たちの大学の岩本繁理事長に「学生に読んでほしいおすすめの本」を紹介していただきました。



理事長(以下、理) 「学生に読んでほしいおすすめの本ですね。」

図書部員(以下、図) 「あ、はい。」

理 「候補の本が多く、色々悩みましたが、塩野七生さんって知っていますか。この方の『ローマ人の物語』(全15巻)を薦めます。文庫本(全43巻)でも出版されているので、持ち運びに便利でちょっとした時間でも読めると思いますが。」

図 「なぜこの本がおすすめなのですか？」

理 「この本はハードカバー、文庫本どちらでも選べますし、また塩野さん、この方は女性なのですが、千年以上続いた古代ローマを通史として(ハードカバーで)15冊にまとめていて、これを15年かけて書きあらわしたそうです。」

図 「1年1冊のペースで？」

理 「ちょうど1年1冊のペースですね。1千年も続いた古代ローマなので、様々な出来事や人の物語があるのですが、それを1人の女性が、通して書くエネルギーって大変なことだと思います。たくさんの資料を参照する必要があったでしょうし、それを15年かけて著すのは並大抵の苦勞ではなかったはずですが。学生のみなさんに伝えたいのは、学生時代は時間があるわけだから、そういう大長編に挑戦して読んで欲しい。大作を読み切った充実感を得ることができるだろうし、そのことは生涯かけて記憶に残るはずですが。(古代ローマ千年の諸行をあらわしたこの作品を読むことで)色々なことを考えられるようになると思います。」

☒ 「充実感ですか…。私もこの夏休みに挑戦してみたいと思います。…理事長はお忙しい方だと思うのですが、どんな時に読まれたのですか？」

理 「この『ローマ人の物語』は、出張など旅行に行くときに飛行機の中で自分の好きな巻を読むことが多かったように思います。文庫本だと薄くてかさ張らないので。」

☒ 「この作品はハードカバーと文庫本 2 種類で出ていますが、理事長は文庫本タイプの方がお好きなのですか？」

理 「私は文庫本の装丁のほうが好きですね。そう考えると、(本というのは)装丁も大事だと思います。」

☒ 「確かに。何回も読みたくなる理由を教えてください。」

理 「1 回読み通しておく、ある年齢になったときにまた読みたくなる時があると思います。この塩野さんの著し方は小説でも紀行文でもない独特な切り口なので、時代が新しいとか古いとか感じず読むことができると思います。」



☒ 「なるほど。…では、最後に理事長にとっての読書とは何か教えてください。」

理 「私には活字マニアなところがあり、ただ読むことが面白いと感じています。あまり抵抗なく本が読めることで、結果として知識が広がりました。学生のみならずも活字に慣れてくれるといいように思います。」

☒ 「私もこの大学時代にたくさん読書したいと思います。本日はお忙しい中取材に応じてくださり、ありがとうございました。」

今回岩本理事長が紹介してくださった、『ローマ人の物語』(著：塩野七生)ですが、これはハードカバータイプが学校の蔵書としてあります。今回のインタビューで気になった方、ぜひ借りてみてください。

また、お忙しい中快く取材に応じてくださった岩本理事長をはじめ、ご協力をいただきました総合企画課の皆様、本当にありがとうございました。

【ご紹介】

東京経済大学理事長 岩本繁(いわもと・しげる)

現役の公認会計士、(株)三井住友フィナンシャルグループ・(株)三井住友銀行取締役、元・有限責任あずさ監査法人会長、元・日本電信電話(株)監査役(昭和 39 年東京経済大学卒)

図書部員 壱



本の紹介コーナー



「生き残るためには」のテーマで紹介します



無人島に生きる十六人

作者：須川邦彦

新潮文庫

400円

『十五少年漂流記』という児童文学の名作がありますが、それになぞらえるなら本作はさしずめ『十六**中年**漂流記』と呼ぶことができます。

海難事故で遭難し、無人島に漂着した十六人が、知恵を出し合って生き抜こうとする物語です。こういう内容の本は、えてして生活のつらさから重い内容になりがちですが、本作はそれを全く感じさせず、気軽に読むことができます。

無人島に漂着した後の最初の命令は、「全員、はだかになれ」です。いったいなぜなのか、気になった人は、すぐに読んでみましょう。



地名に隠された「東京津波」

作者：谷川彰英

講談社 + 新書

838円

今や地上には634メートルのタワーがそびえ立ち、地下には9本もの地下鉄が駆け抜け、1300万人の人々が暮らす大都会、東京。

しかし、そこで暮らす人々は、自分がいる場所がどういったものであるかがわかりにくくなっています。そこで、「仮に10メートルの津波が押し寄せたときにどこに逃げればいいのか」を地名に基づいて、そこがどういう場所であるかを検証するのが本書のねらいです。

(図書部 イノウエ)

図書館蔵書の紹介コーナー



不思議な不思議な「深海生物」たち

深海は近くて遠い世界です。東京湾を 200m も潜ればすぐ深海であるにも関わらずそこへ行ったひとはほとんどいません(東京湾の最大水深は 700m だそうです)。そこは光がほとんど届かない暗黒の冷たく高圧の世界です。そんなどう考えても暮らしやすいとはいえずらい世界に適応して暮らしているのが「深海生物」です。

今回紹介する『深海生物ファイル』(著:北村雄一)にはたくさんの深海の生き物たちが写真やイラスト付きで掲載されています。今年話題になったダイオウイカも掲載されています。ダイオウイカの体には塩化アンモニウムが含まれており、新鮮な肉を試しに食べたひとによると「柔らかくて歯ごたえがなく、しかも塩っぱい」そうです。刺身にしたのか炒め物にしたのかイカリングにしたのか、知りたいところです。スケーリーフットというインド洋 2,500m の海底に住む巻貝は、なんと金属(黄鉄鉱)からできています。敵に対する防御手段として発達したようなのですが、生き物が金属を身にまとうなんて不思議な感じですよ。



また食材として利用されている深海生物も紹介されており、メルルーサ フィレオフィッシュ、マジェランアイナメ 銀ムツ、回転寿しで見かける甘エビやスーパーでも販売されているタチウオやキンメダイも深海魚だそうです。みなさんも普段の生活の中で深海魚に出会っているかもしれませんね。

生き物だけではなく、日本の領海や排他的経済水域には希少金属や、石油、メタンハイドレート等の資源があることが確認されています。深海はまだまだわからないことの多い開拓の可能性のある新天地なのかもしれません。

『深海生物ファイル』(著)北村雄一 (図書館蔵書)

(部長)

図書館



フォトコンテスト



開催！

今年度で役目を終える現図書館を、写真に残してみませんか？皆様の作品をお待ちしております！！

応募期間：10月1日(火)～10月21日(月)

作品掲示・投票期間：10月末～11月15日(金)

審査・投票により受賞作品を決定

審査発表：11月22日(金)

受賞者には記念品を用意します。

詳しい応募方法、注意事項につきましては、
図書館 HP をご覧ください。

(通常、図書館内での写真撮影は禁止されております。館内での撮影を希望する方は、撮影時に必ずカウンターに申し出てください。)

図書部員紹介 ～ 創刊号編 ～

私たち図書部員の、メンバー紹介です！自己紹介に加え、部員おすすめの本・映画の紹介もしているので、新たな本との出会いのお手伝いができたら……と思います！



壺：経営学部流通マーケティング学科2年

私がおすすめる本は電撃文庫から出ている「キノの旅」(作：時雨沢恵一)です。これは、キノという人間と喋るバイク・エルメスが、旅をしながら様々な国や自治区など巡る短編集です。一人と一台が巡った国は、様々な特徴や問題を持っています。それらは現実に起こっている出来事やこれから起こりうる出来事です。その出来事が本当に良いことか、悪いことなのか。それは一切書かれていません。読者である私たちが各自で考えるようになっているのです。

アクションが好きな人！長編を読むのが苦手な人！本読むことで何かを得たい人！
良い意味で期待を裏切ってくれます。ぜひ、この作品を読んでみてください。

図書部員のヨッシー（現代法学部2年）です！好きな作家は伊坂幸太郎さんで、特におすすめの本は、「SOSの猿」と、「アヒルと鴨のコインロッカー」です。映画も大好きで、ジャンル問わず、どんな映画でも観ます。おすすめは、ダイハードかなあ！よろしく願います！

(名前) アネモネ (所属) 経済学部1年

(おすすめの本) 有川浩「レインツリーの国」

私が今まで読んできた恋愛小説の中で、一番好きな作品です。ぜひ、読んでみてください！
読んだことがある方も、新たな発見があると思うので再読してみてもいいかもしれませんか？

今回は、創刊号編集メンバーを中心に紹介しました。(壺さんは図書部だよりの編集長を、ヨッシーさんは表紙の写真を、担当していただきました！) 次号も、お楽しみに！

東京経済大学に図書部ができましたっ！

本学・久木田学長のもと、学内の優れた取り組みを支援する事業「学内G P」として、「図書プロジェクト」が2013年6月に採択されました。このプロジェクトは、学生の読書推進を第1の目的にしつつ、2014年度の新図書館の竣工を前に、「図書部」として教職員・学生協働による新たな図書館のあり方について試行していくものです。

具体的には、展示や写真コンテストや蔵書の紹介、他図書館のツアー等を企画・実施していきます。現在「図書部」には30名近い部員が集まっており、「どうすれば学生さんに本を読んでもらえるか？」「図書館を利用してもらうには？」をテーマとして、教職員と学生さんが切磋琢磨しながら、みなさんに本に親しんでもらえる活動を続けられれば、と思っています。

図書部・部長

編集後記

はじめまして、こんにちは。「図書部だより～創刊号～」の編集長をやらせていただきました、経営学部2年の壺です。

これは、図書部の活動の一環として発行されたものになります。(図書部についてはこのページの上部にある図書部・部長のコーナーをお読みください。)これから月に1回の発行を目標に、毎回異なる図書部員による「図書だより」を発行していきます。書く方が変わる(予定)なので、内容も今回とはまた異なるかと思えます。けれど、「本に親しんでもらうためのきっかけになるようなものを作る」という根本は変わりませんので、次号もぜひ楽しみしててください。

今回、1年生2人と私を含めた2年生2人、部長の計5人で1から作らせていただきました。楽しんでいただけたでしょうか？創刊号ということで、気合を入れて作らせていただきました。これをきっかけに、本を読んでもみようかな、と思ってもらえたら、とても嬉しいです。

最後になりましたが、岩本繁理事長をはじめ、ご協力をいただきました総合企画課の皆様、また無理難題に付き合ってくださいました図書部員のみんな、これを手にとってくださった読者の皆様、本当にありがとうございました。

それでは！次号の図書だよりもお楽しみに

編集長 壺

発行日：2013年10月1日